

令和6年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

全県の小・中・高等学校における授業改善及び学習改善を通して、外部検定試験等の客観的データを基に、4 技能をバランスよく育成し、児童生徒の英語力向上を確実に図る。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語教育における小中連携の実施の割合が増加
(R4:87.3%⇒R5:89.9%)
* 情報交換:78.5% 交流:64.6%
- ②授業における児童の英語による言語活動の割合が増加
(R4:91.5%⇒R5:94.2%)

- ①授業中の言語活動の時間について50%以上の割合は9割を超えているが、4技能のバランスについては引続き改善の余地がある。

言語活動の内訳（5年）

聞	読	や	発	書
2.8	1.3	2.9	1.9	1.1

言語活動の内訳（6年）

聞	読	や	発	書
2.6	1.3	2.8	1.9	1.3

- ②全国学調質問紙の結果から、約半数の児童が、家庭学習でICT機器を使用して、英語の音声を読みたり英語を話す練習を行っていない。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

- ①R5英語教育改善プラン推進事業で、「学校種間接続」について研究を進めたため、県内の小中連携が改善されたと考えられる。

- ②各校種の研修会に異校種の英語専科教員等も参加できるようにしたことで、中学校を意識した授業改善が進んだと捉えている。

- ①「聞くこと」「話すこと」中心の指導への偏りが見られ、「読むこと」「書くこと」に取り組む時間が確保されていない現状がある。また教師が4技能をバランスよく育成することを意識して言語活動を行っていないと考えられる。

- ②授業中の学習者用デジタル教科書等の活用状況にも課題が見られるため、家庭学習とのつながりが薄く、音声面での資質・能力の習得に課題があると思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①県内の小中連携が推進されてきているが、カリキュラムの連携については、未だ課題が残る。県版小中高連携CANDOリストの具体的な活用を示し、系統的な目標と指導と評価の一体化を通して、英語力向上を図る。

- ②R5英語教育改善プラン推進事業のYamanashi English Channelの提案授業動画を研修会等で活用し、中高連携の推進も図っていく。校種を超えて、言語活動の質についても考えていく必要がある。

- ①研究指定校の授業提案及び全県での授業改善
中学校への接続を意識した言語活動を通しての授業を行うことを基本とし、研究指定校が小6を対象として研究を進める。教師の指導力・英語力向上について、県内英語専科教員対象研修会等で、「読むこと」「書くこと」に関して言語活動を通して指導することが4技能の育成に結びついているのかを指定校アンケート調査から検証する。また、小学校教員の新規採用に関わり、英語に関する資格等を有する者への加点措置を引き続き実施していく。

- ②Yamanashi English Actionオンライン学習会の実施
放課後の時間帯を利用し短時間で全県の教職員を対象とした「英語教育」について考える機会を持つ。教師の授業改善につながる「質の高い言語活動」「英語の発話を基本とした授業展開」「学習者用デジタル教科書の活用事例」等について情報交換をする。

令和6年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

全県の小・中・高等学校における授業改善及び学習改善を通して、外部検定試験等の客観的データを基に、4 技能をバランスよく育成し、児童生徒の英語力向上を確実に図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：42.0％⇒R6：44.0％）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語教育における小中連携の実施の割合が増加
（R4:87.3％⇒R5:89.9％）
＊情報交換:78.5％ 交流:64.6％
- ②授業における生徒の英語による言語活動の割合が増加
（R4:73.8％⇒R5:75.5％）
＊中1 R4:77.2％⇒R5:81.0％

未だ改善が必要な点

- ①授業中の言語活動の割合は改善傾向にあるものの、学年が上がるにつれて、教師の英語使用量に課題が見られる。
（R4:75.5％⇒R5:75.1％）
R5全国学調の結果から、全ての領域において、知識・技能を問う問題で正答率が低い。
- ②R5全国学調質問紙の結果から、約半数の生徒が、家庭学習でICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習を行っていない。
- ③生徒の外部検定試験受験率が低い。（R5:32.0％）

2. 要因分析

- ①R5英語教育改善プラン推進事業で、「学校種間接続」について研究を進めたため、県内の小中連携が改善されたと考えられる。
- ②各校種の研修会に異校種の英語担当教師も参加できるようにしたことで、特に中1における授業改善が進んだと捉えている。

- ①学習内容が高度化すると、教師が英語による言語活動を十分に行えていない現状がある。また、実際のコミュニケーションで活用できる知識・技能を習得する授業改善が進んでおらず、生徒が言語の働き等を意識して言語活動を行っていないと考えられる。
- ②授業中の学習者用デジタル教科書等の活用状況にも課題が見られるため、家庭学習とのつながりが薄く、音声面での資質・能力の習得に課題があると思われる。
- ③生徒が自分の英語力を的確に把握していないことも要因と考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①県内の小中連携が推進されてきているが、カリキュラムの連携については、未だ課題が残る。県版小中高連携CAN-DOリストの具体的な活用を示し、系統的な目標と指導と評価の一体化を通して、英語力向上を図る。
- ②R5英語教育改善プラン推進事業のYamanashi English Channelの提案授業動画を研修会等で活用し、中高連携の推進も図っていく。校種を超えて、言語活動の質についても考えていく必要がある。
- ①研究指定校の授業提案及び全県での授業改善
どの学年においても英語で授業を行うことを基本とするために、研究指定校が中2・中3を対象として研究を進める。また、県内英語担当教師対象研修会等で、思考力、判断力、表現力等を育成しながら、「正確に」内容を理解したり、伝え合ったり表現したりする授業づくりについて実践報告をする。
- ②Yamanashi English Actionオンライン学習会の実施
放課後の時間帯を利用し全県の教職員を対象に授業改善について考える機会を持つ。「質の高い言語活動」「英語の発話を基本とした授業展開」「学習者用デジタル教科書を用いた家庭学習の在り方」等について情報交換をする。
- ③全県の中学校への英検IBA(RL)の導入
客観的データを用いて、教師の指導改善・評価改善（生徒の英語力の見取りの妥当性を高める）を進める。また、生徒の学習改善を進めるとともに、自分の英語力を知ること、外部検定試験受験率及び資格取得の向上を図る。

令和6年度 山梨県 英語教育改善プラン

目標

全県の小・中・高等学校における授業改善及び学習改善を通して、4 技能をバランスよく育成し、生徒の英語力向上を確実に図る。

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5実態：50.4%⇒R6目標値：54.0%、R9目標値：60.0%)
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5実態：22.8%⇒R6目標値：24.6%、R9目標値：30.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

＜英語教育実施状況調査より＞

- ①授業における生徒の英語による言語活動の実施率が増加【50.0% (R3) ⇒ 59.1% (R4) ⇒ 64.8% (R5)】
- ②授業における教師の英語使用状況（発話の50%以上を英語で行う）が改善【46.8% (R3) ⇒ 55.6% (R4) ⇒ 58.2% (R5)】

未だ改善が必要な点

＜英語教育実施状況調査より＞

- ①言語活動の実施率は向上したものの、言語活動の内訳（全体を10とする）に偏りがある。【1・2年生 聞く:1.8 読む:2.5 話す〔やり取り〕:1.8 話す〔発表〕:1.4 書く:2.5 (R5)】
- ②パフォーマンステストの実施率が年度によってばらつきがある。【49.1% (R3) ⇒ 54.4% (R4) ⇒ 37.9% (R5)】
- ③中高連携を行った学校の割合が減少した。【20.0% (R3) ⇒ 29.6% (R4) ⇒ 25.9% (R5)】

2. 要因分析

- ①R3～5年度英語教育改善プラン推進事業における、発信力向上のための授業改善・学習改善の取組が進んだと思われる。また研究指定校のオンライン・アーカイブ配信や成果報告会により、全県にその取組が波及しつつある。
- ②教師向けの各種研修会の効果が表れていると思われる。

- ①学年が上がるにつれて学習内容が高度化し、言語活動の実施率が減少するとともに、言語活動が「読むこと」と「書くこと」に偏る傾向があるため、4 技能をバランスよく育成できていない。
- ②各校でCAN-DOリストは設定されているものの、それに基づいた系統的な評価がなされていない。【設定：100% 公表：78.4% 評価に使用：70.3%】
- ③異校種の学習到達目標を理解して系統的に日々の授業を行う必要性が高まっていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- 左記①②に基づき継続する施策・事業
- ・「R5年度英語教育改善プラン推進事業」のYamanashi English Channelの提案授業動画を研修会等で活用し、言語活動の質について考えるとともに、「活発な英語による言語活動の充実」に全県的に取り組む。
- ・「自治体連携アライアンス研修会」「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」への参加を奨励する。

改善が不十分だった要因に基づき行う施策・事業

- ①「英語授業改善推進事業」の推進
- ・研究指定校を指定し、統合的な言語活動を通して4 技能をバランスよく育成する効果的な指導と評価のあり方の研究と、組織的な授業改善を依頼する。
- ・全県における授業改善の推進のため、指定校の取組を県教育委員会主催の成果報告会にて周知する。
- ②「外国語科授業力アップ研修」の継続
- ・総合教育センターと連携し、CAN-DOリストの具体的な活用法を示し、系統的な目標と指導と評価の一体化を通して、生徒の英語力の向上を図る。
- ③「Yamanashi English Action」との連携
- ・小中学校と合同でYamanashi English Actionオンライン学習会を実施し、異校種との情報交換の場を確保し、教師が日々の授業を系統的に行うための一助とする。

山梨県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	50.4	54		56		58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	22.8	24.6		26.4		28.2		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		60	64.8	65		66		68		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		55	37.9	45		50		55		60	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	90	78.4	92		94		96		98	
		達成状況の把握（％）	80	70.3	82		84		86		88	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	81.4	82		84		86		88	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		58	58.2	60		62		64		66	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	42	44		46		48		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	75.5	80		83		86		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		95	86.9								
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	75	60.8	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	85	81	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	37	39		41		43		45	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	75.1	79		81		83		85	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	60	63.6	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	90	90.9	100		100		100		100	